

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病虫害防除所長
(公印省略)

平成23年度病虫害発生予察特殊報第2号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

平成23年度 香川県病虫害発生予察特殊報第2号

平成24年 1月 6日
香川県農業試験場病虫害防除所

1. 病虫害名： **チャトゲコナジラミ** *Aleurocanthus camelliae* Kanmiya and Kasai
2. 発生作物： **チャ**
3. 発生地域： 高松市、仲多度郡まんのう町

4. 発生経過

平成23年12月に香川県内の茶園において、葉裏にトゲコナジラミ類幼虫の寄生を確認した。幼虫を採集して、神戸植物防疫所に同定依頼したところ、平成24年1月4日にチャトゲコナジラミであることが確認された。

本種は、平成16年に京都府で初めて確認され、現在までに16都府県で発生が確認されている。なお、本種は当初ミカントゲコナジラミのチャ系統として発生及び被害が報告されてきたが、平成23年3月に新種として登録された。

5. 形態

- 1) 成虫の体長は雌が約1.3mm、雄はそれよりやや小さい。虫体は橙黄色から橙褐色であるが白粉で覆われており、前翅は紫褐色から緑褐色で不整形の白斑がある。
- 2) 孵化幼虫は淡黄色で移動ができ、定着すると光沢のある黒色になる。2～4齢幼虫(写真1、2)は光沢のある黒色で周囲に白色ロウ物質があり、周囲と背面に多数の刺毛を有する。4齢幼虫は長さ約1mmである。
- 3) 卵は長さ0.2mm、淡黄色の勾玉状で、基部には短い柄がある。

6. 生態と被害

- 1) 卵、1～4齢幼虫を経て成虫になる。年間3～4世代を繰り返すが、越冬は主に3齢及び4齢幼虫である。
- 2) 幼虫は葉裏に寄生し(写真3)、孵化直後の幼虫は歩行するが、定着後の幼虫は移動しない。成虫は新芽によく集まる。成虫の寿命は約4日と短い、羽化後間もなく交尾し、主に葉裏に産卵する。
- 3) チャ以外の宿主植物は、サザンカ、サカキ、ヒサカキ、シキミ等である。
- 4) 成虫及び幼虫によって葉が吸汁被害されるほか、排泄する甘露によりすす病が発生する(写真4)。

7. 防除上の注意等

- 1) 発生地域からの苗木、生葉及び人等の移動による本種の拡散に注意する。
- 2) 幼虫は下位葉、成虫は新芽によく集まるので、定期的にこれらの部分の葉裏を観察し、早期発見に努める。
- 3) 成虫は黄色に誘引されるため、4月から11月まで、黄色粘着トラップを茶園に設置し、発生を確認する。
- 4) 本種の発生を認めた園では、薬剤による防除を行う。マシン油乳剤以外の薬剤の防除適期は、若齢幼虫発生期である。薬剤散布前に深刈り剪枝やすそ刈り等を行うと、薬剤がかかりやすくなる。
- 5) 越冬時期にはマシン油乳剤による防除を行う。散布は、寄生の多い下位葉の葉裏等にも十分に薬液が付着するよう丁寧に行う。
- 6) 幼虫が寄生している剪定した枝葉は発生源となるため、放置せず土中に埋設する等適切に処理する。
- 7) 疑わしい虫の寄生が認められる場合は、病虫害防除所または満濃試験地に連絡する。

8. 参考資料

「チャの新害虫チャトゲコナジラミの防除マニュアル」 編集：ミカントゲコナジラミ（チャトゲコナジラミ）研究推進連絡会

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryu2/index.html>



写真1 2～4齢幼虫（黒色で周囲に白いロウ物質を伴う）



写真3 葉裏に寄生している幼虫



写真2 幼虫（拡大）



写真4 多発園地に発生したすす病

農薬は使用基準を遵守し、ラベルをよく見て使いましょう。

香川県農業試験場病虫害防除所ホームページ <http://www.jpjn.ne.jp/kagawa/>